



2015-07 22 CT撮影1回！再来院なしのサージカルテンプレート

reporter:営業課 工藤

スマートフュージョンとは、インプラント治療を正確・安全に行うためのサポートシステムです。このシステムでは、審美的であり機能的な上部構造がセットされるように、パソコン上の3D画像で手術のシミュレーションを行います。このスマートフュージョンについて、ノーベル・バイオケア社の山本氏よりお話を聞かせていただきました。

スマートフュージョンは、ノーベルクリニシャンおよびノーベルプロセラシステムを連動させることで、従来のラジオグラフィックガイドに比べて設計工程が簡略化されます。CT撮影1回と印象採得を行いラボへ依頼し、プロセラで読み込んだ模型の情報と欠損部のワックスアップの形態を、先生がお持ちのノーベルクリニシャンで読み込み、シュミレーションします。従来のラジオグラフィックガイドでは、患者様のCT撮影が2度必要で、撮影のために再来院していただく必要がありました。今回のスマートフュージョンでは、1度CT撮影を行えば再来院していただく必要はありません。結果、先生にとっては治療の簡略化、インプラント埋入時のストレス軽減、患者様にとっては来院回数や治療に対しての不安軽減など、双方へのメリットはとて大きなものだと考えられます。

スマートフュージョンの詳細ならびにご不明な点がございましたら当社営業にご相談ください。



ノーベルプロセラシステム



ノーベルクリニシャン

2015-08 07 フッ酸同様のエッチング効果で360秒が80秒に短縮！モノボンドエッチ&プライム

reporter:営業課 阿久津

日々、歯科業界での進歩が著しい昨今、医院様の悩みのひとつに、修復物の脱離と破折があります。そんな中、イボクラビバデント社の修復物とセメントとの関係性について、お話を聞かせていただきました。

どんな修復物でも形成とセメント接着する時の前処理(エッチング処理、クリーニング、シラン処理)を怠れば、脱離や破折が起こる可能性が高くなります。特に、エッチング処理を確実に行う事が大切で、日本でのエッチング処理は、リン酸を使用しているクリーニング処理(唾液にのみ効果あり)にしか過ぎず、世界の主流となっているのは、フッ酸を使用しているエッチング処理です。しかし、このフッ酸は強い毒性があるので、これに類似した商品が無く、輸入でしか購入出来ない為、日本では扱っている医院が少ないのが現状です。今回、イボクラビバデント社が販売している、モノボンドエッチ&プライムという商品は、フッ酸同様のエッチング効果とチェアタイムの短縮、従来のフッ酸での前処理は、中和を含め約360秒に対して、モノボンドエッチ&プライムは、エッチング処理、クリーニング、シラン処理の工程を1つで出来る為、約80秒で処理が可能になります。これによって安全且つ、より正確に修復物の前処理が出来る様になります。ただし、このモノボンドエッチ&プライムは、ガラスセラミックス(e-max)のみにしか使用出来ませんが、今後、CAD/CAM冠などにも使用可能になる可能性がある為、今後の動きにも注目したいところです。



2015-08 09 MCS陶友会 the講演会 part4 を拝聴して

reporter:サービス事業部 深沢

MCS陶友会は、有資格者の歯科技工士を対象とした弊社運営の教育機関「マスターセラミストスクール」の卒業生と、その賛同者が中心となり活動しているスタディグループです。MCS陶友会では、役員主催の元、歯科技工業界において顕著な活動を行い実績を残されている著名な技工士を招聘し、年次講演会を開催しております。



本年も白鷗東京研修センターにて「歯科技工は何処へ向かうのか」と銘打ち、講演会が開催されました。講師はマスターセラミストスクールの主任講師である渡部純市(わたなべじゅんいち)氏と、インストラクターの猪股慧矩(いのまたよしおり)氏の両名によるものであり、どちらもスクール関係者の立場であるため、今回は内々の小規模の講演を想定されていたものが、蓋を開けたら80名以上の方々にご参加され大盛況となりました。

前半の猪股氏による講演「Digital dental technique? Analog dental technique?」では、デジタル化が進んでいる歯科技工の現場において、デジタルコントロールされた手法と従来のアナログ手法による差異を明確に表現され、それぞれの欠点と利点を提示されていました。必ずしも感覚に頼るアナログ手法を排除することは不可能であるが、一部においてデジタルによる数値化の利便性を享受すべきだと考えを示されました。また、主任講師の渡部氏は「錯視を活かした歯牙形態と色調表現」と題し、歯科技工の現場において、人間が受ける視覚要素は錯視によって左右されてしまう事を提示し、それらをかきコントロールし歯牙形態を象っていくべきか示されました。豊富な症例と、錯視の例をユーモアを交えて提示され、講演は大いに盛り上がりました。また、人類の前身でもある類人猿の骨格形態に触れ、人類が進歩していくなかでの歯牙形態の成長も説明されました。

今の歯科業界は、デジタルの去来により分岐点に差し掛かっていると感じました。特に歯科技工の現場では周辺機器が如実にデジタル化されていき、手技によるアナログの感覚が失われつつあります。ですが、人間の頭脳による錯視などの現象はデジタルでは表現する事が難しいのが実情です。デジタル化の波に上手く乗りつつ、アナログの良いところ、アナログでしか対応出来ない箇所を明確に自分自身の技術として研鑽を積み重ねていきたいと思います。

弊社では今後もこのような講演会開催に向け、協力を惜しまず、間接的ながらも歯科医療の発展に寄与できればと願っております。

月刊「歯科技工」に掲載されました reporter/questioner:営業課 遠藤

月刊「歯科技工」に弊社の山下と岡崎の記事が掲載されました。3月号に山下の「ジルコニアクラウンの適合性向上に向けたCAD/CAM技工のポイント」、8月号に岡崎の「焼成収縮を軽減する陶材築盛時の適切な水分量の調査」が掲載されました。興味のある方は月刊「歯科技工」のバックナンバーをご覧ください。

そこで今回、記事を執筆をしたふたりには、Q&A形式でインタビューを行いました。執筆中の秘話や今後の目標など、今をとときめくふたりに聞いてみました。



ジルコニアクラウンの適合性向上に向けたCAD/CAM技工のポイント

補綴1課主任 山下 道之 月刊「歯科技工」3月号(P320~)掲載

遠藤Q. 今回初めての月間歯科技工への掲載でしたが、一番大変だったことは何ですか？

山下A. ひとりではなかなか素材を揃える事が困難だったので、周りのスタッフに協力してもらって、ほんとうに助かりました。

遠藤Q. 今回CAD/CAMの適合についての調査でしたが、今後どのように仕事を進めていきたいと考えていますか？

山下A. ロングスパンのブリッジ等では、やはり形成がカギを握っている為、先生方との連携が特に重要だと考え、密に連絡を取りたいと思いました。

遠藤Q. 次に月間歯科技工への執筆依頼が来たら、どのような事に挑戦したいですか？

山下A. CAD/CAMでの歯冠外アタッチメントは可能なのか。その時の適合性、デザインなど調べてみたいです。

遠藤Q. これからCAD/CAMを取り入れる技工士さんへ、どこに注意しながら作業をすれば良いですか？

山下A. 通常のキャストのWAXUPとはスパーサーの使い方が異なるので、CAD上でのセメントラインの調整など気を付けて製作してもらいたいです。

遠藤Q. 最後に、CAD/CAMはどのように発展していくと考えますか？

山下A. 昨年から保険導入されたCAD/CAM冠が普及した事で、益々CAD/CAMに頼った仕事が増えていくと考えています。私自身も常にそこに目を向けて進歩を見守ってみたいです。



焼成収縮を軽減する陶材築盛時の適切な水分量の調査

補綴4課課長 岡崎 倫子 (月刊「歯科技工」8月号(P966~)掲載)

遠藤Q. 今回初めての月間歯科技工への掲載でしたが、一番大変だったことは何ですか？

岡崎A. 均一に試験片を作る上で、均一な形状をどのような形にするか。パウダーの水分量を一定の状態にするなど、実験として作業を進めることが大変でした。

遠藤Q. 今回、陶材の収縮についての調査でしたが、今後どのように仕事を進めていきたいと考えていますか？

岡崎A. フレームが均一に陶材を盛れるデザインでなければ、シェードへの影響があることが分かり、フレームデザインの重要性を肌で感じたので、常に最終形態を考えながら日々の技工操作を進めていきたいです。

遠藤Q. 次に月間歯科技工への執筆依頼が来たら、どのような事に挑戦したいですか？

岡崎A. 水分量はもちろん、コンデンスひとつでポーセレンの強度に影響を与えるので、今度はポーセレンの強度についての調査もしてみたいと考えています。

遠藤Q. これからポーセレン築盛に携わる若手技工士へメッセージをお願いします。

岡崎A. 知れば知るほど奥が深いポーセレンの特性を理解し、トラブルも財産と考え経験を蓄積して諦めずに挑戦していただきたいと思います。

遠藤Q. 最後に、セラミストとはどうあるべきですか？

岡崎A. 探究心をもって常に前を向き進み、過去の文献と、現代の仕事での融合が図れば常に進歩していくものだと考えます。

高精度の歯科技工を目指すため「技工用トルクドライバ」

技工の現場においても、スクリューの締め付けトルクは無視できない存在です。

締め付けトルクによって上部構造のバイトと適合への影響が及び、最終的には時間を掛けて調整する事となります。

また、締め付けトルクがオーバーすると、ネジ山の一部分が変形し、本来の強度や性能が得られません。

ネジ変形を防ぐためにもオーバートルクによる弊害は避けなければいけません。

今回このトルクドライバを購入したことで、どの模型でも均一なトルク値で操作できます。

オーバートルクによる弊害

規定トルク内で締め付けたスクリュー

ネジ山の形状劣化なし

オーバートルクで締め付けたスクリュー

ネジ山の形状劣化あり